

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of cutaneous melanoma in relation to the numbers, types and sites of naevi: A case-control study	
	論文の日本語タイトル	母斑の数とタイプ、部位との関連でみたメラノーマの発生リスク：症例対照研究	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	MM-CQ2-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8664188	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	73	
	号	12	
	ページ	1605-11	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996 Jun		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bataille V	ICRF Skin Tumour Laboratory, UK
	その他著者 1	Newton-Bishop JA	同上
	その他著者 2	Sasieni P	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
	その他著者 3	Swerdlow AJ	Epidemiological Monitoring Unit, London School of Hygiene and Tropical Medicine, UK
	その他著者 4	Pinney E	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
	その他著者 5	Griffiths K	同上
	その他著者 6	Cuzick J	同上

目的	通常型母斑と atypical nevus のメラノーマ発生へのリスクの検討	
研究デザイン	症例対照研究	
セッティング	Thames 川の北東部地域の病医院	
対象者	同上地域の 1989-1993 年のメラノーマ患者 426 人と対照 416 人	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (2)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (14)	
介入 (要因曝露)	皮膚科医による全身の 2mm 以上の母斑 (通常型と atypical nevus) の個数と分布の調査	
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
1	通常型母斑の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	atypical nevus の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3	skin type, 母斑の部位などからみた母斑とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	1) atypical nevus (AN)(Newton らの scoring system によって定義: Melanoma Res 4:199, 1994)がもっとも有意なメラノーマ発生のリスク因子であり、AN が 4 個以上の者の odds ratio(OR)は (0 個のリスクを 1 として) 28.7(95%CI:8.6-95.6)となった。 2) 全身の通常型母斑の個数もメラノーマ発生の重要な危険因子で、100 個以上の者の OR は (4 個までの者のリスクを 1 として) 7.7(3.8-15.8)となった。 3) 日光曝露部の母斑のみでなく、非曝露部 (前頭部、足背、臀部) の母斑もメラノーマ発生のリスク因子であることが分かった。 母斑の個数が多いとメラノーマ発生のリスクが高まる。とくに AN が有意な危険因子といえる。	
結論		
備考		
レビューワー氏名	斎田俊明	
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 母斑の個数とメラノーマ発生のリスクを皮膚科医と疫学の専門家が協力して調査、検討したものであり、信頼できる研究といえる。英国白人が主たる対象であるので、結論がそのまま日本人に当てはまるかは吟味を要する。	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinically recognized dysplastic nevi: A central risk factor for cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル	臨床的に認識される異形成母斑：皮膚メラノーマの中心的危険因子	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	MM-CQ2-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	9145715	
	医中誌 ID		
	雑誌名	JAMA	
	雑誌 ID		
	巻	277	
	号	18	
	ページ	1439-44	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997 May		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Tucker MA	Genetic Epidemiol Branch, NCI, USA
	その他著者 1	Halpern A	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 2	Holly EA	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 3	Hartge P	Environmental Epidemiol Branch, NCI, NIH, USA
	その他著者 4	Elder DE	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA
	その他著者 5	Sagebiel RW	Dept. of Epidemiology and Melanoma Clinic, Univ. of California, USA
	その他著者 6	Guerry D 4th	Pigmented Lesion Study Group, Univ. of Pennsylvania, USA

目的	母斑の数、タイプと皮膚メラノーマとの関係を検討	
研究デザイン	症例対照研究	
セッティング	米国の 2 大学病院	
対象者	1991.1.1-1992.12.31 のメラノーマ患者 716 人と対照 1014 人	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (2)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (14)	
介入 (要因曝露)	全身の径 2mm 以上の通常型母斑 (5mm 以上を大型とする) と異形成母斑(DN) (径 5mm 以上で、かつ多彩な色調、不規則不整な外形、境界不明瞭のうちの 2 項目を満たす) の調査	
エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
1	全身の母斑の数、タイプとメラノーマの相関	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	1) DN が存在しない場合、小型の母斑の個数がメラノーマ発生のリスクとなり、25 個以上で発生リスクが約 2 倍となった。 2) 大型母斑 (5 個以上) と小型母斑 (50 個以上) がともに多い場合はメラノーマ発生リスクが約 4 倍となった。 3) 1 個の DN が存在するとメラノーマ発生リスクが 2 倍 (95%CI:1.4-3.6) となった。 4) DN が 10 個以上になるとメラノーマ発生リスクが 12 倍(4.4-31) となった。	
結論	通常型母斑もメラノーマ発生のリスクとなるが、DN の方が高いリスクとなる。	
備考		
レビューワー氏名	斎田俊明	
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 白人におけるメラノーマ発生リスクにおける DN の意義に関する研究	

一次研究用フォーム		データ抽出欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Number of acquired melanocytic nevi in patients with melanoma and control subjects in Japan: Nevus count is a significant risk factor for nonacral melanoma but not for acral melanoma	
	論文の日本語タイトル	日本におけるメラノーマ患者と対照群における後天性色素細胞母斑の数：母斑の数は非肢端メラノーマの有意な危険因子だが、肢端メラノーマの危険因子ではない	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ2-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15097952	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	695-700	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004 May		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rokuhara S	Dept. of Dermatology, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 1	Saida T	同上
	その他著者 2	Oguchi M	同上
	その他著者 3	Matsumoto K	同上
	その他著者 4	Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 5	Oguchi S	Division of Dermatology, Saku Central Hospital, Japan
その他著者 6			

一次研究の8項目	目的	日本人のメラノーマ患者と一般人について、全身の母斑の個数と大きさ、分布を調査し、メラノーマ発生との関係を検討する。	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	日本人のメラノーマ患者 82人（肢端メラノーマ 50人、非肢端メラノーマ 25人など）と対照 600人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (9)	
	介入（要因曝露）	皮膚科医による全身（外陰部、頭部を除く）の母斑の検索	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
		1	日本人一人当たりの母斑の個数とその年齢による変化
	2	母斑の個数をメラノーマ患者と一般人について比較	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	メラノーマの病型（部位）と母斑との関係	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	主な結果	1) 日本人において母斑は0歳から19歳にかけて増加し、20-39歳の年齢層で最多となり（一人当たり6.7個）、その後徐々に減少した。 2) 非肢端メラノーマ患者（結膜メラノーマを除く）は40-79歳の年齢層で対照よりも有意に多い母斑を有した。 3) 肢端メラノーマ患者と対照群との間には全身の母斑の数に有意差がなかった。	
	結論	日本人においても母斑の個数は、非肢端メラノーマ発生の危険因子といえる。	
	備考		
レビューワークコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 日本人における母斑の疫学的実態とメラノーマとの関係についての初めての本格的調査である。症例対照研究の形をとっておりレベルIVとした。	

レビュー用フォーム		データ抽出欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Classification of congenital melanocytic naevi and malignant transformation: A review of the literature	
	論文の日本語タイトル	先天性色素細胞母斑の分類と悪性形質転換：文献のレビュー	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ3-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	15544766	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Plast Surg	
	雑誌 ID		
	巻	57	
	号	8	
	ページ	707-19	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004 Dec		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Zaal LH	Dept. of Plast. Reconstr and Hand Surg, Isala Klinieken, Netherland
	その他著者 1	Mooi WJ	Dept. of Pathology, Netherland Cancer Institute, Netherland
	その他著者 2	Sillevis Smitt JH	Dept. of Dermatol, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 3	van der Horst CM	Dept. of Plat. Reconstr and Hand Surg, Academic Medical Center, Netherland
その他著者 4			

レビュー研究の6項目	目的	先天性母斑の大きさによる分類と悪性化に関する文献的検討	
	データソース	MEDLINEにて1966-2002年の先天性母斑に関する文献を検索	
	研究の選択	メラノーマとの関係、母斑サイズ分類の明記などを基準に文献を選択	
	データ抽出	不明	
	主な結果	1) 巨大型先天性母斑の定義としては、少なくとも7つの提案がなされていた。 2) 小型の先天性母斑が後天性母斑かの組織学的区別は困難であった。 3) 巨大型先天性母斑はメラノーマを生じるリスクが高いが、その率は1%から31%まで、報告によって大きな開きがあった。	
	結論	1) 巨大型母斑の定義を統一しておかないと、評価に混乱が生じる。著者らは、頭部では体表面積の1%、その他の部位では2%以上のものを巨大型としたい。（その人の手の大きさがおよそ体表の1%に相当する） 2) 先天性母斑は可能な限り予防的に切除すべきだと考える。	
	備考		
レビューワークコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) MEDLINE で関連文献を検索した論文であり厳密なものではないが、システマティックレビューの範疇に入ると考える。	

レビュー研究用フォーム		論文の格入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of melanoma arising in large congenital melanocytic nevi: A systematic review	
	論文の日本語タイトル	大型先天性色素細胞母斑に生じるメラノーマのリスク: システマティック・レビュー	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ3-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID	15253185	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	113	
	号	7	
	ページ	1968-74	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004 Jun		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Watt AJ	University of Michigan School of Medicine and Section of Plastic Surgery, Dept. of Surgery, USA
	その他著者 1	Kotsis SV	同上
	その他著者 2	Chung KC	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

レビュー研究の6項目	目的	大型先天性母斑におけるメラノーマ発生のリスクをシステマティックレビューにて検討する
	データソース	PRE-MEDLINE と MEDLINE
	研究の選択	1966-2002年の文献を渉猟。大型母斑の定義として、体表面積の2%以上あるいは最大径20cm以上の母斑病巣とした。
	データ抽出	2名の研究者が独立に文献からデータを抽出した。互いのデータを比較して、結果に差異があったら、話し合いによって合意した。
	主な結果	1) 8文献が検出され、432症例が解析対象となった。 2) 平均経過観察期間 6.2年で、12例 (2.8%) に皮膚のメラノーマが生じた。不明の2例を除き、メラノーマは母斑病巣部に生じた。 3) 一般人に比べ、大型先天性母斑の患者がメラノーマを生じる危険性は有意に高く、standardized morbidity ratio は 2599(95%CI: 844-6064)となった。 4) メラノーマを生じた12例への事前の処置は、無治療が50%、部分切除17%、dermabrasion 8.3%、ケミカルピーリング 8.3%、不明17%であった。
	結論	大型先天性母斑の患者はメラノーマを発生するリスクが有意に高い。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (1) きちんとした解析手法によるデータである。ただし、皮膚以外のメラノーマや neurocutaneous melanocytosis の合併は対象とされていない。表の注記から、皮膚のメラノーマ以外に、leptomeningeal melanoma 1例、その他の皮膚以外のメラノーマ1例、neuroblastoma 1例、neurocutaneous melanocytosis 5例、原発不明転移での死亡3例があったことが分かる。

一次研究用フォーム		論文の格入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Association of melanoma and neurocutaneous melanocytosis with large congenital melanocytic naevi: Results from the NYU-LCMN registry	
	論文の日本語タイトル	メラノーマおよび皮膚神経メラノサイトーシスと大型先天性色素細胞母斑との関係: NYU-LCMN 登録からの結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ3-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15787820	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	152	
	号	3	
	ページ	512-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2005 Mar		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Hale EK	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 1	Stein J	同上
	その他著者 2	Ben-Porat L	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund
	その他著者 3	Panageas KS	Dept. of Epidemiology and Biostatistics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA
	その他著者 4	Eichenbaum MS	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
その他著者 5	Marghoob AA	Dept. of Epidemiology and Biostatistics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA	

一次研究の8項目	その他著者 6	Osman I	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 7	Kopf AW	同上
	その他著者 8	Polsky D	同上
	目的	大型先天性母斑に生じるメラノーマと neurocutaneous melanocytosis(NCM)の発生リスクと臨床的特徴の検討	
	研究デザイン	1施設における大型先天性母斑患者を対象とするコホート研究	
	セッティング	大学病院の専門外来	
	対象者	同外来に登録された205人の患者。うち、170人前向きに追跡された。	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
介入 (要因曝露)	NCM や衛星母斑病巣の存在、母斑のサイズ		
エンドポイント (79例)	エンドポイント	区分	
1	メラノーマと NCM の出現率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	メラノーマと NCM の出現に関連する因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	1) 前向きに追跡した 170 人の患者のうち 4 人にメラノーマが生じた。Standard morbidity ratio は 324(95%CI:140-919)となった。 2) メラノーマ発生と有意に関連する因子として、多数の衛星母斑病巣、NCM の存在が挙げられた。 3) メラノーマや NCM を生じた者の母斑の大きさは、生じなかった者のそれらに比べ、有意に大きかった。 4) 本登録にエントリーされた 205 人の平均年齢は 1.2 歳、登録からの追跡期間の中央値は 4 年であった。うち 10 人にメラノーマが生じた。その半数は 2 歳までに生じた。 5) NCM は 17 人に生じた、うち 15 人では 4 歳までに生じた。多数の衛星母斑病巣の存在が NCM 発生と有意な相関を示す傾向がみられた。母斑のサイズも大きい傾向がみられた。		
結論	大型先天性母斑患者において多数の衛星母斑病巣の存在と病巣の大きさがメラノーマと NCM 発症に有意に相関する。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 大型先天性母斑患者の中心的センターであるニューヨーク大学皮膚科における多数例についての解析である。白人患者が主体と考えられるので、日本人にそのまま当てはまるか、検討が必要。	

一次研究用フォーム		二次研究用フォーム	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Is dermoscopy useful for the diagnosis of melanoma? : Results of a meta-analysis using techniques adapted to the evaluation of diagnostic tests	
	論文の日本語タイトル	ダーモスコピーはメラノーマの診断に有用か？ 診断試験の評価へ適合した手法を用いたメタアナリシスの結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ4-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	11594860	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	10	
	ページ	1343-50	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001 Oct	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bafounta ML	Service de Dermatologie, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 1	Beauchet A	Antenne d'Informatique Medicale, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 2	Aegerter P	同上
	その他著者 3	Saiag P	Service de Dermatologie, Hopital Ambroise Pare, France
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

レビュー研究の6項目	目的	メラノーマ診断における肉眼所見での診断とダーモスコピー（熟練者）による診断の正確度の比較のメタアナリシス
	データソース	2000年3月までの関連文献を MEDLINE や EMBASE などでも検索、収集
	研究の選択	対象疾患の明記、最終診断が組織診断、感度と特異度の計算が可能、という条件を満たす研究を選択。672 文献中 8 文献がこの条件を満たした。
	データ抽出	3人の研究者がデータを抽出し、不一致のものは話し合いで合意をえた。
	主な結果	1) 全体としてメラノーマ 328 病巣（多くは tumor thickness が 0.76mm 以下の早期病変）と良性病変 1865 病巣（メラノサイト系病変が主体）が対象となった。ダーモスコピーによるメラノーマ診断の感度は 0.75-0.96、特異度は 0.79-0.98 に分布した。 2) ダーモスコピーは肉眼所見による臨床診断よりも有意に高い検出力を示した。その推定オッズ比 (estimated odds ratio) は 76(95%CI=25-223) 対 16(9-31)であった(P=0.008)。また、推定陽性尤度比(estimated positive likelihood ratio)は 9(5.6-19) 対 3.7(2.8-5.3)であった。
	結論	ダーモスコピーは、熟練者が用いれば、肉眼所見のみよりもメラノーマの診断精度を有意に向上させる。
レビューコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) メラノーマの診断におけるダーモスコピーの有用性をメタアナリシスにて検討した信頼できる論文である。

一次研究用フォーム		二次研究用フォーム	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Addition of dermoscopy to conventional naked-eye examination in melanoma screening: A randomized study	
	論文の日本語タイトル	メラノーマのスクリーニングにおける通常の肉眼的観察へのダーモスコピー検査の追加：ランダム化比較試験	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ4-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	Pubmed ID	15097950	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	683-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 May	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Carli P	Dept. of Dermatology, University of Florence, Italy
	その他著者 1	De Giorgi V	同上
	その他著者 2	Chiarugi A	同上
	その他著者 3	Nardini P	同上
	その他著者 4	Weinstock MA	Dermaepidemiology Unit, Brown University, Providencede, USA
	その他著者 5	Crocetti E	Clinical and Descriptive Epidemiology Unit, Center for Oncologic Prevention, Florence, Italy
	その他著者 6	Stante M	Dept. of Dermatology, University of Florence, Italy
その他著者 7	Giannotti B	同上	

一次研究の8項目	目的	肉眼的臨床診断にダーモスコピーを併用するとメラノーマをスクリーニングするうえで意義があるかを検討し、さらに、診断の難しい病巣のダーモスコピーによる digital follow-up が患者の取り扱いに及ぼす影響を検討する。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	大学病院の色素性病変外来	
	対象者	2001年1月から2002年3月までに受診した患者 913 人 (12 歳以下の 25 人を除く)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入 (要因確論)	受診した患者をランダム化し、肉眼所見とダーモスコピー所見を合わせて診断困難な病変を生検する群 (B 群)、医師の判断によりダーモスコピーで digital follow-up する選択肢を設ける群 (C 群)、ならびに肉眼所見のみで診断困難な病変を生検する群 (A 群) に割り付け。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	
		1	ダーモスコピーの併用で無駄な生検が減るか
	2	digital follow-up に意義があるか	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
レビューコメント	主な結果	1) ダーモスコピーを併用すると、肉眼所見のみの場合に比べ、生検される病巣が有意に減少した (9.0% 対 15.6%; P=0.013)。2) digital follow-up 群では診断困難と判定されるものが増加した。そのうち約半数は直ぐに生検され、残りが digital follow-up となった。この群では 6 ヵ月後の 2 回目のダーモスコピー検査でメラノーマが 2 病巣検出された (in situ が 1 病巣、0.4mm の厚さが 1 病巣)。3) 3 群間で最終的に切除されたメラノーマ病巣の数はほぼ同数であった (各 3、2、3 病巣)。	
	結論	ダーモスコピーを加えると、肉眼所見のみの場合に比べ、診断確認のために生検する病巣の数が有意に減少する。digital follow-up の選択肢があると、2 回目のダーモスコピー検査まで切除されないメラノーマの数が増加する可能性がある。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (II) 専門外来でのメラノーマのスクリーニングにおけるダーモスコピーの意義をランダム化試験で明らかにした研究。	

一次研究用フォーム		データ格入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Significance of dermoscopic patterns in detecting malignant melanoma on acral volar skin: Results of a multicenter study in Japan	
	論文の日本語タイトル	肢端無毛部皮膚のメラノーマの検出におけるダーモスコピーパターンの意義：日本における多施設共同研究の結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ4-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15492186	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	10	
	ページ	1233-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004 Oct		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Saida T	Dept. of Dermatol, Shinshu Univ. School of Med., Japan
	その他著者 1	Miyazaki A	同上
	その他著者 2	Oguchi S	同上
	その他著者 3	Ishihara Y	同上
	その他著者 4	Yamazaki Y	同上
	その他著者 5	Murase S	Dept. of Medical Informatics, Shinshu University School of Medicine, Japan
	その他著者 6	Yoshikawa S	Dept. of Dermatol, Saitama Medical School, Japan
	その他著者 7	Tsuchida T	同上
	その他著者 8	Kawabata Y	Dept. of Dermatol, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Japan
その他著者 9	Tamaki K	同上	

一次研究の 8 項目	目的	掌蹠のメラノサイト系病変でみられる定型的なダーモスコピーパターンの診断的意義を検討		
	研究デザイン	症例対照研究		
	セッティング	大学病院		
	対象者	3 次大学で 2000 年までにダーモスコピー検査が行われた掌蹠のメラノーマ 103 病巣（うち 36 病巣は in situ 病変）と色素細胞母斑 609 病巣（後天性 453 病巣、先天性 156 病巣）		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
	介入（要因曝露）	ダーモスコピー検査		
	アウトカム（アウトカム）	エンドポイント	区分	
	1	1	掌蹠のメラノーマの特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel ridge pattern と irregular diffuse pigmentation のメラノーマ診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		掌蹠の母斑の特徴的ダーモスコピー所見とされる parallel furrow pattern や lattice-like pattern などの母斑診断における感度、特異度などの検討	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3			1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	1) parallel ridge pattern が掌蹠のメラノーマを検出する感度は 86%、特異度は 99%、陽性期待値 93.7%、陰性期待値 97.7%、診断精度 81.7%であった。Melanoma in situ の段階でも感度 86%、特異度 99%であった。 2) irregular diffuse pigmentation が掌蹠のメラノーマを検出する感度は 85.4%、特異度は 96.6%、陽性期待値 80.7%、陰性期待値 97.5%、診断精度 71%であった。Melanoma in situ では感度 69.4%、特異度 96.6%であった。 3) parallel furrow pattern または lattice-like pattern が母斑を検出する感度は 67.2%、特異度 93.2%、陽性期待値 98.3 であった。			
	ダーモスコピーは掌蹠のメラノーマと母斑の診断にきわめて有用であり、とくに parallel ridge pattern は掌蹠メラノーマの早期検出に役立つ。			
備考				
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 掌蹠のメラノサイト系病変の診断におけるダーモスコピーの有用性を多施設の多数の病変によって証明した研究。		

レビュー研究用フォーム		データ格入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Serological markers for melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MM-CQ5-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I )	
	Pubmed ID	10951131	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	143	
	号	2	
	ページ	256-68	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2000 年 2 月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brochez L	Gent 大学皮膚科
	その他著者 1	Naeyaert JM.	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	メラノーマの血清腫瘍マーカーの文献的レビュー		
	データソース	1981 年～1991 年の Medline 検索		
	研究の選択	記載なし		
	データ抽出	記載なし		
	主な結果	各種のサイトカインおよびその受容体、細胞接着分子、S100 蛋白 melanoma inhibitory activity(MIA), neurone-specific enolase (NSE)、メラニン代謝産物、脂肪結合シアル酸、組織特異的 RT-PCR 反応などがメラノーマの血清腫瘍マーカーとして報告されている。しかし、これらは一般に進行期の患者血清でのみ異常値を示す。また、進行期における陽性率も 100%ではなく、病期分類にも用いることはできない。ただし、いくつかのマーカーは予後因子となる可能性がある。		
		現在知られているメラノーマの血清腫瘍マーカーの臨床的有用性は限られているが、いくつかのマーカーは予後の予測や患者の層別化に役立つ可能性があり、さらなる検討が必要である。		
	結論			
	備考	文献整理番号：メラノーマ Q6 文献番号 1		
	レビューワーコメント	レビューワー氏名	高田 実	
		レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) 2000 年の時点ではあるが、メラノーマの血清腫瘍マーカーについて網羅された優れた総説。厳密なものではないが、MEDLINE 検索しておりシステマティックレビューに準ずるものと考えた。本レビューにおいて腫瘍マーカーの意義は肯定されていない。	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Highly sensitive detection of melanoma at an early stage based on the increased serum secreted protein acidic and rich in cysteine and glypican-3 levels.	
	論文の日本語タイトル	MM-CQ5-2	
診断ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MM CQ5-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	16299239	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Cancer Res	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	22	
	ページ	8079-88	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2005年11月	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Ikuta Y	熊本大学
	その他著者 1	Nakatsura T	熊本大学
	その他著者 2	Kageshita T	熊本大学
	その他著者 3	Fukushima S	熊本大学
	その他著者 4	Baba, H	熊本大学
	その他著者 5	Nishimura, Y	熊本大学
	その他著者 6	Ito S	藤田保健衛生大学
	その他著者 7	Wakamatsu K	藤田保健衛生大学
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	早期メラノーマの診断に役立つ腫瘍マーカーを明らかにする		
研究デザイン	横断研究		
セッティング	熊本大学病院		
対象者	メラノーマ、巨大先天性母斑、健康人		
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 1 )		
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )		
介入（要因曝露）	血清 SPARK, GPC3, 5-S-CD 値		
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
一次研究の 8 項目	1	メラノーマの病期	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	血清の可溶性 SPARK 値はメラノーマ患者 109 例中 36 例(33%)で、正常対照の平均値+2SD を超える異常高値を示し、そのうち 19 例は Stage 0~II の早期例であった。血清 GPC3 値とあわせると Stage 0~II の早期例 75 例中 47 例 (66.2%) で、いずれかの異常高値が認められた。		
結論	GPC3 と GPC3 は早期メラノーマの診断に役立つ血清腫瘍マーカーであり、両者の併用により約 2/3 の早期メラノーマ症例で血清診断が可能である。		
備考	レビュワー氏名 高田 実		
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 興味深い研究成績であるが、早期メラノーマの多くは臨床所見や病理組織所見で容易に診断されるので、その臨床的有用性は疑問。メラノーマとの鑑別が難しい Spitz 母斑のデータがあれば、診断問題例の補助診断法として用いられるかもしれない。		

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Malignant melanoma in 20-MHz B scan sonography.	
	論文の日本語タイトル		
診断ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ6-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	1638071	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatology	
	雑誌 ID	9203244	
	巻	185	
	号		
	ページ	49-55	
	ISSN ナンバー	p 1018-8665, e 1421-9832	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hoffmann K	Dermatological Department of the Ruhr University Bochum, St. Josef's Hospital, Bochum, FRG
	その他著者 1	Jung J	
	その他著者 2	el Gammal S	
	その他著者 3	Altmeyer P	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			

目的	20MHz 高周波エコーを用いて悪性黒色腫原発巣の評価を行う。		
研究デザイン	症例対照研究		
セッティング	悪性黒色腫での受診患者		
対象者	54 人の悪性黒色腫患者		
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )		
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 14 )		
介入（要因曝露）	悪性黒色腫原発巣を術前に高周波エコーにより tumor thickness を測定し、切除後に得られた組織学的な tumor thickness と比較する		
エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
一次研究の 8 項目	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	悪性黒色腫原発巣は、高周波エコーでは多くは低エコー領域として描出される。 測定された tumor thickness と標本上の tumor thickness との間の相関は $r=0.983, p<0.001$ であった。 腫瘍下の炎症細胞浸潤や低エコーを示す構造があることで誤差が生じた。		
結論	高周波エコー単独では確定診断は難しいが、手術計画において付加的な情報を得ることができる。		
備考			
レビュワー氏名	林 宏一		
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 症例集積研究あるいは記述的研究ともとれるが、臨床に極めて重要な 2 変数の相関を分析しており、症例対照研究に準ずるものと考えた。		

一次研究用フォーム		データベース欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性 - 原発巣の厚さの測定による病期の推定 -	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCCQ6-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1996151281	
	雑誌名	日本皮膚科学雑誌	
	雑誌 ID		
	巻	105	
	号	14	
	ページ	1837-1843	
	ISSN ナンバー	0021-499X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1995	
	著者情報	氏名	八田尚人
所属機関		金沢大学医学部皮膚科学教室	
筆頭著者		八田尚人	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 1		酒井秀彰	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 2		高田 実	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 3		竹原和彦	金沢大学医学部皮膚科学教室
その他著者 4		角谷真澄	金沢大学医学部放射線医学教室
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫の術前評価における MRI の有用性を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	大学病院	
	対象者	悪性黒色腫患者 18名	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 15 )	
	介入 (要因曝露)	悪性黒色腫原発巣の厚さ、浸潤レベルを術前に MRI を用い評価し、切除後に得られた組織学的な厚さと比較した。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	病期	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2	tumor thickness	1.主要 2.副次 3.その他 ( 2 )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	爪の in situ の 2 例以外は MRI による評価が可能であった。皮下組織への浸潤の有無については全例で評価が可能であった。組織学的に得られた腫瘍の厚さと MRI により得られた腫瘍の厚さはよく相関した (R=0.963)	
MRI の所見から推定した病期は術後病期と 16 例中 15 例が一致し、術前評価に有用であることが示唆された。2mm 以下の病変の測定は誤差が多く実用的ではない印象を受けた。組織の切り出し面と MRI のスライス面が必ずしも一致しないことが誤差を生じる要因となり、評価を慎重に行う必要がある。MRI における信号強度は撮影条件、他の要因の影響によって変化する。			
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	林 宏一	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 V ) 例数が少なく症例集積研究あるいは記述研究ともとれるが、MR I からの推定病期と術後病期の相関を検討しており、症例対照研究に準ずる優れた研究と評価した。	

一次研究用フォーム		データベース欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	エコーによる悪性黒色腫原発巣の厚さ計測、皮膚科診療ブラケット 14 機器を用いたスキャンリニック	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCCQ6-3 Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( V )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名		
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	137	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )	
	発行年月	2002	
	著者情報	氏名	林 宏一
所属機関		信州大学医学部皮膚科	
筆頭著者		林 宏一	信州大学医学部皮膚科
その他著者 1			
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			

一次研究の 8 項目	目的	症例報告およびレビュー	
	研究デザイン	大学病院	
	セッティング	大学病院	
	対象者	悪性黒色腫患者 18名	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 1 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( )	
	介入 (要因曝露)	高周波エコーでの tumor thickness は 4mm までは比較的よく相関し、特に 2mm 以下では MRI に比べ描出力に優れ、組織学的な tumor thickness との一致度も高かった。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	高周波エコーでの tumor thickness は 4mm までは比較的よく相関し、特に 2mm 以下では MRI に比べ描出力に優れ、組織学的な tumor thickness との一致度も高かった。		
	結論		
備考			
レビューコメント	レビュー氏名	林 宏一	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( V )	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Is incisional biopsy of melanoma harmful?	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ7-1Web	
書籍情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	16307945	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	190	
	号	6	
	ページ	913-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2005 Dec	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Martin RCG 2nd	University of Louisville
その他著者 1		Scoggins CR	University of Louisville
その他著者 2		Ross MI	University of Texas
その他著者 3		Reintgen DS	Lakeland Regional cancer centre
その他著者 4		Noyes RD	LDS Hospital
その他著者 5		Edwards MJ	University of Arkansas
その他著者 6		McMasters KM	University of Louisville
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	切除生検、部分生検、shave biopsyそれぞれ施行後の、センチネルリンパ節転移、局所再発、無病生存率、無遠隔転移生存率、全生生存率を検討する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	アメリカ、カナダ	
	対象者	Sunbelt Melanoma Trialにエントリーしたもののうち生検手技の種類が判明している1782症例。	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	Excisional biopsy, incisional biopsy, shave biopsy	
	エンドポイント (7916)	エンドポイント	区分
	1	SNL metastasis	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2	locoregional recurrence	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	3	disease-free survival	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	4	distant disease-free survival	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
5	overall survival	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
主な結果	3 群間にセンチネルリンパ節転移陽性率の差はなかったが、潰瘍 ( $p=0.018$ , カイ2乗) とリグレーション ( $p=0.022$ , カイ2乗) の有無について有意差が認められたが、年齢、性別、tumor thickness, Clark level, 脈管浸潤、原発部位、組織学的 subtype に関して有意差は認められなかった。		
	生検手技の違いは、センチネルリンパ節転移、局所・所属リンパ節転移、無病生存率、無遠隔転移生存率、総生存率に影響を与えなかった。		
	不完全切除によってセンチネルリンパ節転移陽性率が上昇するかもしれないと考えられたが、そのようなことはなかった。		
結論			
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	吉賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Influence of biopsy on the prognosis of cutaneous melanoma of the head and neck.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ7-2Web	
書籍情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	8647675	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Head Neck	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	2	
	ページ	107-17	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1996 Mar-Apr	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Austin JR	テキサス大学 M.D.アンダーソン癌センター Department of Head and Neck Surgery
その他著者 1		Byers RM	同上
その他著者 2		Brown WD	同上
その他著者 3		Wolf P	同上
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部悪性黒色腫における生検手技の違いが予後に影響を及ぼすか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	M.D.アンダーソン癌センター	
	対象者	1983年から1991年までM.D.アンダーソン癌センターで治療を受けた頭頸部悪性黒色腫患者 159人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	excisional biopsy, incisional biopsy, other biopsy	
	エンドポイント (7916)	エンドポイント	区分
	1	原発部位での再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2	所属リンパ節再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	3	遠隔転移	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	生検手技の違いによる、原発部位での再発率と所属リンパ節再発率への影響は認められなかったが、遠隔転移に関して excisional biopsy で 10.1%、incisional biopsy で 31.3%と有意差を認めた ( $p=0.007$ )。また、黒色腫による死亡は excisional biopsy で 8.9%、incisional biopsy で 31.3%と有意差を認めた ( $p=0.023$ )。多変量解析では腫瘍の残存、頸部病変、生検の方法が生存率に影響する独立因子とされた。		
	頭頸部においては、病変の大きさによって incisional biopsy をせざるをえない場合は、迅速に追加切除できる状況を用意しておく必要がある。		
	結論		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	吉賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )	



レビュー用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Final version of the American Joint Committee on Cancer staging system for cutaneous melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMCCQ8-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID	11504745	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号	16	
	ページ	3635-48	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2001 Aug 15		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Balch CM	Johns Hopkins Medical Institutions
	その他著者 1	Buzaid AC	American Society of Clinical Oncology
	その他著者 2	Soong SJ	Hospital Sirio Libanes
	その他著者 3	Atkins MB	University of Alabama at Birmingham
	その他著者 4	Cascinelli N	Beth Israel Deaconess Medical Center
	その他著者 5	Coit DG	Istituto Nazionale Tumori
	その他著者 6	Fleming ID	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center
	その他著者 7	Gershenwald JE	Methodist Hospital Cancer Center
	その他著者 8	Houghton A Jr	University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center
	その他著者 9	Kirkwood JM	University of Pittsburgh Medical Center
その他著者 10	McMasters KM	John Wayne Cancer Institute	

レビュー研究の6項目	目的	悪性黒色腫のステージングシステムを改訂する
	データソース	AJCCメラノーマデータベースの17600人
	研究の選択	Tumor Thickness、リンパ節転移、遠隔転移について検討
	データ抽出	
レビューコメント	主な結果	Level of invasionはT1にのみ適用する T,N分類に潰瘍の有無を入れる 顕見病変はN分類に入れる 4.0mmより厚い腫瘍はIIc リンパ節転移の大きさは不要 リンパ節転移の数は必要 リンパ節転移は顕微鏡的か肉眼的か記載する 肺転移はM1bに独立 センチネルリンパ節生検の結果を反映させる
	結論	2002年のAJCC Cancer Staging Manual発行を持って公式な改訂とする
	備考	
レビューコメント	レビュワー氏名	古賀弘志
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 ) 具体的な研究方法は同じ号のほかの論文に記載されている。Q9-Q4 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されておりそれに準ずるものと評価した。

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Predicting five-year outcome for patients with cutaneous melanoma in a population-based study.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMCCQ8-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	8697387	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	78	
	号	3	
	ページ	427-32	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1996 Aug 1		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Barnhill RL	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 1	Fine JA	Harvard Medical School
	その他著者 2	Roush GC	Yale University School of Medicine
	その他著者 3	Berwick M	Memorial-Sloan Kettering Cancer Center
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	悪性黒色腫における人口ベースの予後因子を解析する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	コネチカット州	
	対象者	1987年1月から1989年5月までの548人	
	対象者情報(国別)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 14 )	
	介入(要因曝露)	組織型、クラークレベル、顕微鏡的衛星病巣、リグレーション、Tumor thickness、潰瘍、脈管浸襲、細胞分裂数、tumor infiltrating lymphocytes、growth phase、年齢、性別、原発部位、solar elastosis、黒子、リンパ球の反応、深部の色素	
	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5年生存率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
レビューコメント	主な結果	単変量解析では組織型、クラークレベル、顕微鏡的衛星病巣、リグレーション、Tumor thickness、潰瘍、脈管浸襲、細胞分裂数、growth phase、solar elastosisが予後に影響した。 多変量解析ではTumor thicknessと細胞分裂数のみが予後に影響した。	
	結論	Tumor thicknessが最も強い予後因子であった。	
	備考		
レビューコメント	レビュワー氏名	古賀弘志	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )	

一次研究の引用情報		データ抽出情報	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Ultrasonography or palpation for detection of melanoma nodal invasion: a meta-analysis	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMCQ9-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID	15522655	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	11	
	ページ	673-80	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2004 Nov		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bafounta ML	Hopital Ambroise Pare
	その他著者 1	Beauchet A	同上
	その他著者 2	Chagnon S	同上
	その他著者 3	Saiaq P	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の6項目	目的	メラノーマ患者のリンパ節転移を検出する目的で行う触診と超音波検査の有用性を評価する
	データソース	2003年12月1日までのMEDLINE (1996から), EMBASE (1989から), PASCAL-BIOMED (1987から), Cochrane database, BIUM (1985から)。MEDLINEの検索にはultrasonography, sonography, ultrasound, echographyのキーワードを使用した。
	研究の選択	当初94報の論文を検索しアブストラクトから28報に絞った。そのうち12報をメタアナリシスに使用した。
	データ抽出	不明
	主な結果	超音波検査は触診に比べ有意に検出力が高かった。 超音波検査(odds ratio 1755; 95% CI 726-4238) 触診(21 [4-111]; p=0.0001) 超音波検査と触診の陽性尤度比は41.9 (29-75)、4.55 (2-18)、 超音波検査と触診の陰性尤度比は0.024 (0.01-0.03)、0.22 (0.06-0.31)
	結論	触診に比べ正確であるので経過観察に超音波検査を行うべきである。
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 )

一次研究の引用情報		データ抽出情報	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Routine imaging of asymptomatic melanoma patients with metastasis to sentinel lymph nodes rarely identifies systemic disease	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMCQ9-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	15302691	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	8	
	ページ	831-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2004 Aug		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Miranda EP	カリフォルニア大学外科
	その他著者 1	Gertner M	同上
	その他著者 2	Wall J	同上
	その他著者 3	Grace E	同上
	その他著者 4	Kashani-Sabet M	カリフォルニア大学皮膚科
	その他著者 5	Allen R	カリフォルニア大学外科
	その他著者 6	Leong SP	同上
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	センチネルリンパ節生検陽性患者に行う画像検査の有用性を評価する
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究
	セッティング	カリフォルニア大学
	対象者	1994年4月から2003年2月までにセンチネルリンパ節生検を施行された患者のうち少なくとも1個のリンパ節に転移が見られた185人。
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )
	介入 (要因曝露)	胸部 X-P、胸部・腹部骨盤 CT、頭部 CT または MRI
	エンドポイント (外転)	エンドポイント 区分
		1
	2	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
レビューワーコメント	主な結果	総画像検査の0.5%で転移像が陽性、86%で陰性、14%が評価困難であった。評価困難な場合は更なる画像検査や侵襲的検査にて陰性を確認した。 スクリーニング検査で同定された割合は 胸部 X-P 0% 胸部 CT 0.7% (142人中1人) 腹部骨盤 CT 0.7% (146人中1人) 頭部 CT または MRI 0% (112人中0人) 結果的に1人の患者で全身転移像が確認されたが、センチネルリンパ節生検2ヵ月後の胸部、腹部・骨盤 CT 撮影時点で呼吸苦の臨床症状が出現していた。
	結論	センチネルリンパ節生検陽性であっても無症候性患者であれば、生検後にルーチンに画像検査を行うことは勧められない。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )

レビュー研究用フォーム		データ格納欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Excision margins in the treatment of primary cutaneous melanoma: a systematic review of randomized controlled trials comparing narrow vs wide excision	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	NMQ10-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID	12361412	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Surgery.	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	10	
	ページ	1101-05	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2002		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lens M B	オックスフォード大学 Centre for Evidence-Based Medicine
	その他著者1	Dawes M	同上
	その他著者2	Goodacre T	同上
	その他著者3	Bishop J A	同上
	その他著者4		
	その他著者5		
	その他著者6		
	その他著者7		
	その他著者8		
	その他著者9		
その他著者10			

レビュー研究の6項目	目的	悪性黒色腫の治療において狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの有効性を比較した
	データソース	MEDLINE (from 1966 to March 2001), EMBASE (from 1974 to March 2001) Cochrane Controlled Trials Register (Issue 4, 2000)
	研究の選択	Cochrane Collaborationの選択基準を用いた
	データ抽出	randomisation, number of participants, disease characteristics, intervention characteristics, duration of follow up, rate of follow up, outcomesを基に抽出した
	主な結果	狭い外科的切除マージン (1または2cm) と広い外科的切除マージン (3または4または5cm) の有効性の差は見出されなかった。総生存率 (3件の試験, 1,979 例)。5年生存率に関して2群間で有意差は認められなかった (統合オッズ比 0.79, 95%CI: 0.61-1.04, P=0.09; 不均質性に関するカイ2乗検定 2.15, P=0.34)。無病生存率 (3件の試験, 1,854例)。無病5年生存率に関して2群間で有意差は認められなかった1 (統合オッズ比 0.89, 95%CI: 0.69-1.13, P=0.3; 不均質性に関するカイ2乗検定 2.32, P=0.31)。局所再発と転移。3件の臨床試験全てにおいて、狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの局所再発に関する有意な違いは見出されなかった。(3件の試験, n=2,071)。3件の臨床試験全てにおいて、狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンのリンパ節転移、所属リンパ節転移、遠隔転移に関する有意差は見出されなかった。
	結論	狭い外科的切除マージンと広い外科的切除マージンの間に統計学的有意差が認められた研究は1件も無かった。このメタアナリシスから、厚さ2mm未満のメラノーマにおいて2cmを超える広い外科的切除マージンは生存率の改善、再発転移の減少にはつながらないということがいえる。厚さ2mmを超えるメラノーマ (特に4mm以上の症例) において理想的な切除マージンを評価するにはエビデンスが不足している。
	備考	Database of Abstracts of Reviews of Effects 2006, Issue 2 に掲載 DARE: 20022332
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 ) Database of Abstracts of Reviews of Effects に掲載されており、質の高い研究である。

レビュー研究用フォーム		データ格納欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Optimal excision margins for primary cutaneous melanoma: a systematic review and meta-analysis.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	MQ10-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( 1 )	
	Pubmed ID	14680348	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Can J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	6	
	ページ	419-26	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2003 Dec		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	High PL	University of Toronto
	その他著者1	Di Fronzo LA	同上
	その他著者2	McGready IR	同上
	その他著者3		
	その他著者4		
	その他著者5		
	その他著者6		
	その他著者7		
	その他著者8		
	その他著者9		
その他著者10			

レビュー研究の6項目	目的	主目的: 体幹・四肢のメラノーマ患者において、最大の無病生存期間と全生存期間、最低の局所再発率をもたらすための切除マージンについて検討する。副次的目的: 合併症の発症率を検討する
	データソース	MEDLINE, EMBASE, Cochrane Library (1966 から 2002: term "melanoma," subheading "surgery," and limiting the search to human studies and randomized controlled trials (RCTs)、さらに MSH term "surgical procedures, operative," combining with "melanoma," and limiting to human studies) 2002年5月に検索
	研究の選択	Cochrane collaborationの方法に沿った
	データ抽出	JAMA Users' Guides to the medical literatureに沿った
	主な結果	3件のランダム化比較試験(RCT)を統合して検討した。Wide excision (3-5cm) と narrow excision (1-2cm) を比較した。4から6年目の死亡率: 有意差なし。(リスク比 RR = 0.93, 95%CI 0.73-1.19; リスク差 RD = -0.01, 95%CI -0.04-0.02)。8から11年目の死亡率: 有意差なし。(RR = 0.95, 95%CI 0.81-1.12; RD = -0.01, 95%CI -0.05-0.02)。4から6年目の全再発率: 有意差なし。(RR 0.93, 95%CI 0.81-1.12; RD = 0.00, 95%CI -0.03-0.04)。8年目の全再発率: 有意差なし。(RR = 0.89, 95%CI 0.72-1.09; RD = -0.02, 95%CI -0.06-0.02)。4から72ヶ月目の局所再発率: 有意差なし (RR = 0.98, 95%CI 0.38-2.52; RD = 0.00, 95%CI -0.01-0.01) 8から10年目の局所再発率: 有意差なし (RR = 0.90, 95%CI 0.41-2.00; RD = 0.00, 95%CI -0.01-0.01) 術後感染は1件の試験でのみ検討され、有意差は無かったが wide excision では感染が多かった。植皮の必要性は1件の試験でのみ検討され、有意差は無かったが wide excision で植皮の必要性が多かった。
	結論	切除マージンは1cm以上が望ましいが、最大切除マージンは2cmを超えないことが望ましい。RCTにて2cmと1cmを比較したものは無いので、最小切除マージンは1cmでは無く2cmをゴールとするべきである。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( 1 ) 優れたメタアナリシス

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Histopathologic excision margin affects local recurrence rate: analysis of 2681 patients with melanomas < or =2 mm thick.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	MMQ0-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	15650644	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	241	
	号	2	
	ページ	326-33	
	ISSNナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mannion JG	University of Calgary
	その他著者 1	Starratt EC	Sydney Melanom Unit
	その他著者 2	Scolyer RA	同上
	その他著者 3	McCarthy WH	同上
	その他著者 4	Thompson JF	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	厚さ 2mm以下のメラノーマ患者において、組織学的切除マージンと局所再発、生存率の関係を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	シドニーメラノーマユニット	
	対象者	1996年までに診断された2681人の厚さ2mm以下のメラノーマ患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	切除マージン	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	局所再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 3 )
2	In-transit 再発	1.主要 2.副次 3.その他 ( 3 )	
3	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 3 )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	フォローアップ期間の中央値は83.8ヶ月。局所再発をきたしたのは2681人中55人 (再発までの中央値37ヶ月)であった。120ヶ月経過した時点での計算上の局所再発率は2.9%であった。局所再発後の5年生存率は52.8%であった。 多変量解析では切除マージンと tumor thickness だけが局所再発の予後規定因子であり (ともに p=0.003)、固定した組織上でマージン0.8cm未満の症例 (手術時の切除マージン 1cm未満に相当)を除くと切除マージンは予後規定因子とならなかった。 Tumor thickness、潰瘍、部位は生存率に関する予後因子となったが、マージンはそうではなかった (p=0.49)。		
	結論	病理組織学的マージンは局所再発の危険率に影響するが、切除マージンが1cm以上あれば局所再発の危険因子とならない。切除マージンは患者の生存率には影響しない。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	吉賀弘志	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 多変量解析された優れた報告である。	

レビュー用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Elective lymph node dissection in patients with melanoma: systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	MM C Q-11-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( I )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	4	
	ページ	458-61	
	ISSNナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月	2002.4		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lens, M. B.	Center for evidence-based medicine University of Oxford Nuffield
	その他著者 1	Dawes, M.	
	その他著者 2	Goodacre, T.	
	その他著者 3	Newton-Bishop, J. A.	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビューの6項目	目的	メラノーマにおける予防的リンパ節郭清が予後を改善するかを検討する	
	データソース	MEDLINE, Embase	
	研究の選択	予防的リンパ節郭清と治療的郭清または郭清なしの RCT	
	データ抽出	2名の著者	
	主な結果	229編の論文から評価に耐える RCT の論文として3編を選択。これら3試験の被験者 1533名。全生存率の OR は 0.86(95%CI, 0.68-1.09)で、統計学的有意差なし。	
	結論	予防的リンパ節郭清の有用性は証明されなかった。しかし、対象とされた3つの試験はいずれも対象の選択に偏りがあり、特定の条件で規定される一群の患者に対して予防的リンパ節郭清が有用である可能性は残されている。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( I ) 現在のところ、予防的リンパ節郭清の有用性に関する最も信頼できる meta-analysis。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Multi-institutional melanoma lymphatic mapping experience: the prognostic value of sentinel lymph node status in 612 stage I or II melanoma patients	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ12-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	3	
	ページ	976-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	1999		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Gershenwald, J. E.	MD Anderson Cancer Center
	その他著者 1	Thompson, W.	
	その他著者 2	Mansfield, P. F.	
	その他著者 3	Essner, R.	
	その他著者 4	Lee, J. E.	
	その他著者 5	Colome, M. I.	
	その他著者 6	Lee, J. J.	
	その他著者 7	Balch, C. M.	
	その他著者 8	Reintgen, D. S.	
	その他著者 9	Ross, M. I.	
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	Stage I, II メラノーマにおける SLN 転移の予後因子としての重要性を明らかにする	
	研究デザイン	随及的記述研究	
	セッティング	MD Anderson Cancer Center	
	対象者	臨床的にリンパ節転移のない原発性黒色腫患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	無病生存期間
	2	疾患特異的生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	580 例の SLNB で転移陽性は 85 例 (15%)、陰性は 495 例 (85%)。SLN の転移の有無は性別、腫瘍の厚さ、部位、Clark レベルのなかで無病生存期間および疾患特異的生存期間の最も重要な予後因子であった。		
結論	SLNB は病期の適応の決定と、ハイリスク患者の同定に極めて有用である。		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	高田 実	
	レビュワーコメント		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Role of sentinel lymph node biopsy in patients with thin (<1 mm) primary melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ12-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	10	
	号		
	ページ	558-561	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2003		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Jacobs IA	Department of Surgical Oncology, The University of Illinois at Chicago
	その他著者 1	Chang CK	
	その他著者 2	DasGupta TK	
	その他著者 3	Salti GI	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	厚さ 1 mm 以下の早期メラノーマにおける SLNB の有用性を検討する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	Department of Surgical Oncology, The University of Illinois at Chicago	
	対象者	臨床的にリンパ節転移のない原発性黒色腫患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず ( 2 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	顕微鏡的リンパ節転移
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	厚さ 1 mm 以下の早期メラノーマ 65 例中 SLN 転移は 2 例 (3%) のみに認められた。0.75mm 未満の症例では SLN 転移は 1 例もなかった。		
結論	厚さ 1 mm 以下の早期メラノーマにおける SLN 転移は稀であり、特に 0.75mm 未満の症例では SLNB は行うべきでない		
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	高田 実	
	レビュワーコメント		

一次研究用フォーム		データベース	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sentinel-node biopsy or nodal observation in melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	CQ12-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（II）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	N Engl J Med	
	雑誌 ID		
	巻	355	
	号	13	
	ページ	1307-17	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )		
発行年月	2006		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Morton, D. L.	John Wayne Cancer Institute
	その他著者 1	Thompson, J. F.	John Wayne Cancer Institute
	その他著者 2	Cochran, A. J.	UCLA
	その他著者 3	Mozzillo, N.	NCI, Italy
	その他著者 4	Elashoff, R.	UCLA
	その他著者 5	Essner, R.	John Wayne Cancer Institute
	その他著者 6	Nieweg, O. E.	Netherlands Cancer Institute
	その他著者 7	Roses, D. F.	New York University
	その他著者 8	Hoekstra, H. J.	Groningen University
	その他著者 9	Karakousis, C. P.	Millard Fillmor Hospital
その他著者 10	Reintgen, D. S.	H. Lee Moffitt Cancer Center	

一次研究の 8 項目	目的	メラノーマにおけるセンチネルリンパ節生検が患者の予後の改善に役立つかを明らかにする	
	研究デザイン	前向き無作為振り分け試験	
	セッティング	17 施設共同試験	
	対象者	臨床的にリンパ節転移のない原発性黒色腫患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入（要因曝露）	エンドポイント	
	エンドポイント（アウトカム）	生存率	区分
	1	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
2	無病生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
レビューコメント	主な結果	SLNB が生存率を改善するかどうかを検討するために、17 施設共同のランダム化比較試験（SLT-1）が行われた。この試験では原発性黒色の厚さが 1.2 mm ~ 3.5 mm の SLNB 施行 769 例と原発巣切除のみ（術後の定期的観察でリンパ節転移が出現した時点で郭清）500 例の 2 群に振り分けた。その結果、5 年無病生存率は前者が 78.3±1.3%、後者が 73.1±2.1% で SLNB 群が有意に優れていた（p=0.009; 死亡 HR 0.74）。SLN の転移陽性率は 16.0%（122/764）、経過観察群のリンパ節再発率は 15.6%（78/500）でほぼ同等であった。所属リンパ節における転移陽性リンパ節の平均個数は、SLNB 群で 1.4 個、観察群で 3.3 個で有意に後者が高く（p<0.001）。観察期間中におけるリンパ節転移の進行が承認された。転移陽性例の 5 年生存率は SLNB 群が 72.3±4.6%、観察群が 52.4±5.9% で前者が有意に優れていた（死亡 HR, 0.51; p<0.004）(4)。この成績は SLNB とその結果に基づく直後の所属リンパ節郭清が予後の改善に繋がることが示唆されている。	
	結論	SLNB は原発性メラノーマ患者のステージングとリンパ節郭清の適応を決めるための標準的方法として行われるべきである。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	本研究により、原発性メラノーマ患者のステージングとリンパ節郭清の適応を決めるための標準的方法として行われるべきである。	

レビュー研究用フォーム		データベース	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Therapeutic node dissections in malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMC Q-13-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	6	
	ページ	473-82	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )		
発行年月	1998		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Karakousis, C. P	Department of surgery, State University of New York
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	メラノーマにおける治療的リンパ節郭清の文献的レビュー		
	データソース	記載なし		
	研究の選択	記載なし		
	データ抽出	記載なし		
	主な結果	TLND 後の 5 年生存率は 19~38%、平均 26%であった。組織学的に転移陽性のリンパ節の致、リンパ節の被膜外浸潤の有無が予後を規定する最も重要な因子であった。また、所属リンパ節内における転移の進展度、リンパ節の癒着、再発までの無病期間、原発性黒色の厚さ、部位、潰瘍化なども予後に影響を与えたと考えられた。TLND 後の局所再発率は 0.8%~52%であった。インタフェロン α-2b による術後補助療法で 5 年生存率は 26%から 37%に改善していた		
	結論	TLND により明らかな生存率の改善が望める。適切な術後補助療法の併用により生存率のさらなる上昇が期待できる。		
	備考			
	レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
		レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( I ) 1998 年の論文でやや古いのが、術前検査、TLND の手術手技、合併症、予後因子、術後経過観察の方法などが詳しく述べられた優れた総説である。	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	悪性黒色腫	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk factors for nodal recurrence after lymphadenectomy for melanoma	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫における所属リンパ節切除後のリンパ節における再発にかかわる危険因子	
読者が得られる情報	引文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	引文での目次名称	MMCQ13-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	11258774	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	8	
	号	2	
	ページ	109-115	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2001 Mar		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Pidhorecky I	Roswell Park Cancer Inst, USA
	その他著者 1	Lee RJ	同上
	その他著者 2	Proulx G	同上
	その他著者 3	Kollmorgen DR	同上
	その他著者 4	Jia C	同上
	その他著者 5	Driscoll DL	同上
	その他著者 6	Kraybill WG	同上
	その他著者 7	Gibbs JF	同上
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	メラノーマのリンパ節転移切除（予防的筋清の結果、顕微鏡的転移が陽性のもの、あるいは根治的筋清施行）後のリンパ節における再発の危険性、予後に関する検討（術後放射線療法非施行）		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	米国の癌研究施設		
	対象者	1970-1996 年に施行された予防的あるいは根治的リンパ節筋清にて転移陽性であった 338 人のメラノーマ患者（予防的筋清で顕微鏡的転移陽性のもの 85 人と根治的筋清 253 人）		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (2)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入（要因曝露）	所属リンパ節筋清		
	エンドポイント (7974)	エンドポイント	区分	
	1	所属リンパ節における転移の再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	所属リンパ節における転移の再発に關与する危険因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他 (1)		
3	筋清所属リンパ節における転移再発に対する 2 回目の筋清の効果	1.主要 2.副次 3.その他 (2)		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
主な結果	1) 筋清後のリンパ節における再発は予防的筋清群で 14%に、根治的筋清群で 28%にみられた (P<0.009)。 2) リンパ節転移の再発に關与する危険因子としては、高齢者、頭頸部原発、厚い原発巣、リンパ節転移の個数、リンパ節被膜外への浸潤が挙げられた。 3) 各リンパ節域において、予防的筋清群の方が根治的筋清群よりもリンパ節での再発率が低かった。 4) 予防的筋清群に比べ、根治的筋清群の方がリンパ節転移が大きく、転移の個数も多く、被膜外浸潤も高率であった。 5) 疾患特異的 10 年生存率は予防的筋清群が 51%、根治的筋清群が 30%であった (P=0.0006)。 6) 筋清後のリンパ節転移での再発は、遠隔転移の出現と有意に相関し、再発陽性の者は 87%に、陰性のものは 54%に遠隔転移が生じた (P=0.0001)。 7) リンパ節転移再発が単発性であった 6 例には再根治術が施行され、うち 5 例の無病期間中央値は 79 カ月であった。			
	結論	リンパ節筋清後、腫瘍量が大きい場合（厚い原発巣、多数のリンパ節転移、リンパ節被膜外浸潤）、高齢者、頭頸部原発の者は再発の危険性が有意に高く、生存率が有意に低い。筋清リンパ節での再発が単発の場合には、2 度目の筋清によって救命できる可能性がある		
	備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 信頼できる 1 施設における所属リンパ節筋清後の再発の危険性と予後に関する検索結果の報告である。		

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	悪性黒色腫	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Lymph node dissection for clinically evident lymph node metastases of malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の臨床的に明らかなリンパ節転移に対するリンパ節筋清	
読者が得られる情報	引文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	引文での目次名称	MMCQ13-3Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	12099654	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Eur J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	4	
	ページ	424-430	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002 Jun		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Meyer T	Univ. of Erlangen, Germany
	その他著者 1	Merkel S	同上
	その他著者 2	Goehl J	同上
	その他著者 3	Hohenberger W	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			
その他著者 8			

一次研究の 8 項目	目的	臨床的に明らかな所属リンパ節転移を有する悪性黒色腫患者への根治的リンパ節筋清施行後の予後に影響する因子に関する検討		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	大学病院外科		
	対象者	1978-1997 年に経験された、臨床的に明らかな所属リンパ節転移（触診、エコー、CTにて検出）が存在し、その他の転移が検出されない患者 140 人		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (2)		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入（要因曝露）	根治的リンパ節筋清		
	エンドポイント (7974)	エンドポイント	区分	
	1	根治術後の予後に影響する因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )		
主な結果	1) 全 140 症例の生存期間の中央値は 25 カ月で、5 年生存率は 30%であった。 2) 予後不良と關する因子は、50 歳より高齢、体幹の原発巣、3 個より多数のリンパ節転移、リンパ節の被膜外浸潤であった。 3) 多変量解析でも、50 歳以下か否か (P=0.02)、体幹原発か否か (P=0.005)、リンパ節転移が 3 個以下か否か (P=0.01)、リンパ節被膜外浸潤の有無 (P=0.04) が有意に独立する予後因子であった。			
	結論	所属リンパ節転移に対する根治的筋清の施行は意義があり、約 1/3 の患者を救命する可能性がある。しかし、根治的筋清のみでは予後の改善が望めない患者群も存在する。		
	備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 1 施設での症例数がそれほど多くない、後ろ向き試験。		

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for cutaneous malignant melanoma: rationale and indications	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ14-1Web	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(1)	
	Pubmed ID	14768409	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Oncology (Huntingt)	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	1	
	ページ	99-107	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Ballo MT	MD アンダーソン癌センター
その他著者 1		Ang KK	同上
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	悪性黒色腫における放射線療法の意義をレビューする。
	データソース	記載なし
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	局所再発のリスク因子 深さ(>4 mm): 6-14%、頭頸部原発: 5-17%、潰瘍形成: 10-17%、衛星病巣: 14-16%、desmoplastic type: 23-48% 放射線療法の適応 (原発部位) desmoplastic type、切除断端陽性、局所再発、深さ4 mm以上で潰瘍形成か衛星病巣を有する病変(領域リンパ節) 腋窩外進展、4個以上の転移、径が3 cm以上、頭部リンパ節転移、再発例、センチネル生検で陽性であったが十分な確信せず 領域リンパ節再発: 手術のみ (20-80%)、手術+照射 (5-20%) 予防的リンパ節照射の適応(臨床的転移なし): Clark レベル 4以上、深さ1.5 mm以上
	結論	高リスクの症例では術後放射線療法は有用であろう。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	術後放射線療法の有用性を検討したレビュー。良くまとまっている。レベル I

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interferon alfa-2b adjuvant therapy of high-risk resected cutaneous melanoma: The ECOG Trial EST 1684.	
	論文の日本語タイトル	ハイリスクの術後皮膚悪性黒色腫に対するインターフェロンアルファ2b補助療法; ECOG トライアル EST1684.	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ5-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(II)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	7-17	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Kirkwood JM	Division of Medical Oncology, Univ. of Pittsburgh, PA, U.S.A.
その他著者 1		Strawderman MH	
その他著者 2		Ernstoff MS	
その他著者 3		Smith TJ	
その他著者 4		Borden EC	
その他著者 5	Blum RH		

一次研究の8項目	目的	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者の術後補助療法において、インターフェロンアルファ 2b 投与の有用性を評価する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	ECOG 施設	
	対象者	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者 287 例	
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入(要因曝露)	全国的データベースに基づく調査	
	エンドポイント(79追加)	エンドポイント	区分
	1	術後全生存期間の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	術後無病生存期間の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	T4(tumor thickness>4mm)と N1(旧 AJCC 分類)の悪性黒色腫患者において根治術後に高用量の IFN-α を 1 年間、大量投与すると対照群(無処置)に比べ全生存期間(3.8年対 2.8年、P=0.0237)、無病生存期間の中央値(1.7年対 1年、P=0.0023)に有意差がみられた。		
結論	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫患者における術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与は全生存期間および無病生存期間の改善に役立つ。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (II)	



一次研究用フォーム		データ種別	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	High- and low-dose interferon alfa-2b in high-risk melanoma: First analysis of intergroup trial E1690/S9111/C9190.	
	論文の日本語タイトル	ハイリスクメラノーマにおける高および低用量インターフェロンアルファ2b: グループ内トリアル E1690/S9111/C9190 の初回分析	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	MMQ5-2Web	
誌誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( II )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J. Clin. Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号		
	ページ	2444-2458	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2000	
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
	筆頭著者	Kirkwood JM	Dept. of Pathology, Univ. of Pittsburgh Medical Center, U.S.A.
	その他著者 1	Ibrahim JG	
	その他著者 2	Sondak VK	
	その他著者 3	Richards J	
	その他著者 4	Flaherty LE	
	その他著者 5	Ernstoff MS	
	その他著者 6	Smith TJ	
	その他著者 7	Rao U	
	その他著者 8	Steel M	
その他著者 9	Blum RH		

一次研究の 8 項目	目的	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫瘍患者において、術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与を、全生存期間および無病生存期間について、非投与群と比較検討する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	ECOG 施設	
	対象者	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫瘍患者 642 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (79項目)	エンドポイント	区分
	1	全生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
2	無病生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	無再発 5 年生存率には有意差が認められた (44% 対 35%) が、全生存期間に有意差は検出されなかった。		
結論	ハイリスクの皮膚悪性黒色腫瘍患者において、術後補助療法としてのインターフェロンアルファ 2b の高用量投与は、無病生存期間の改善に役立つ。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( II )	

一次研究用フォーム		データ種別	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Clinical study of DAV+IFN-beta therapy(combination adjuvant therapy with intravenous DTIC, ACNU and VCR, and local injection of IFN-beta) for malignant melanoma.	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫に対する DAV+IFN-beta 療法 (DTIC, ACNU, VCR の静脈内投与および IFN-beta の局所投与の併用療法) の臨床試験	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MMQ16-1Web	
誌誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (III)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int.J. Immunotherapy	
	雑誌 ID		
	巻	12	
	号	3/4	
	ページ	73-78	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996	
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
	筆頭著者	Yamamoto A	Division of Dermatology, National Cancer Center Hospital, Japan
	その他著者 1	Ishihara K	Dept. of Dermatology, Showa Univ. School of Medicine, Japan
	その他著者 2		
	その他著者 3		
その他著者 4			

一次研究の 8 項目	目的	DAV+IFN-beta 療法施行による生存率の改善を検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験 (歴史対照との臨床比較試験)	
	セッティング	全国 67 施設	
	対象者	1988-1995 年に根治術を受けたメラノーマ症例の術後患者から登録された 427 例の患者 (旧 UICC 分類 I,II,III)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	術後 DAV+IFN-beta 療法	
	エンドポイント (79項目)	エンドポイント	区分
	1	術後 5 年生存率の統計学的比較	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	この補助療法は DAV のみの投与の historical control に対し、旧 UICC 病期 III において 5 年生存率が有意差 (65.1% 対 46.2%) を示した。		
結論	この療法は旧 UICC 病期 III の悪性黒色腫瘍患者に対し、術後補助療法として生存率が改善する可能性がある。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	山本明史	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (III) ランダム化比較試験は施行されておらず、国際的に認知されたエビデンスレベルの高い治療とはいえないが、海外とは病像が異なり、かつランダム化比較試験が行われ無い本邦の状況を考慮すると現時点では推奨できる。	

レビュー情報用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Contemporary surgical treatment of advanced-stage melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	MMCQ17-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Surg	
	雑誌 ID		
	巻	139	
	号	139(9)	
	ページ	961-6 discussion 6-7.	
	ISSN ナンバー	0004-0010 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2004	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Essner R,	Roy E. Coats Research Laboratories, John Wayne Cancer Institute, Saint John's Health Center,
その他著者 1		Lee JH,	
その他著者 2		Wanek LA,	
その他著者 3		Itakura H,	
その他著者 4		Morton DL,	
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	遠隔転移切除後の予後に関わる因子を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	1574 例の遠隔転移切除後の予後に関わる因子をしらべた。多変量解析で、転移個数（単発）、転移部位（皮膚、リンパ節転移）、所属リンパ節転移を経ない遠隔転移、病期 I,II から IV にいこうするまでの期間、が統計的に重要な因子であった。
	結論	遠隔転移の切除は有効である。限局した部位、少ない個数の遠隔転移であれば、解剖学的部位を考慮して、根治的な手術を考慮すべきである。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 多数の症例について検討した貴重なデータである。

レビュー情報用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Regional treatment options for patients with ocular melanoma metastatic to the liver.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドラインでの目次名称	CQ18-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	3	
	ページ	290-7	
	ISSN ナンバー	1068-9265 (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	2004	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Feldman ED,	Surgical Metabolism Section, Surgery Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland 20892-1502, USA.
その他著者 1		Pingpank JF,	
その他著者 2		Alexander HR, Jr.	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	悪性黒色腫の肝転移の治療のレビュー
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	手術、全身化学療法、肝動注、塞栓療法についてのレビュー
	結論	
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV ) 肝動注、塞栓療法についてのこれまでの報告例についてまとめてあり、一読の価値がある。

レビュー研究用フォーム		データ格入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	皮膚悪性腫瘍治療最前線 メラノーマ肝転移の TAE 療法。	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上の目次名称	CQ18-2Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Derma	
	雑誌 ID	(1343-0831)	
	巻	77	
	号		
	ページ	38-43	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	藤沢康弘	国立がんセンター 皮膚科
	その他著者 1	山崎直也	
	その他著者 2	山本明史	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	CDDPの肝動注薬投与法の臨床効果を調べる
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	11 症例。生存期間中央値 14 ヶ月。副作用少ない。
	結論	CDDP の肝動注薬投与法は、適応がある患者には積極的に施行すべきである。
レビューコメント	備考	
	レビューワー氏名	宇原
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（1V） 本邦での報告例である。いくつかの適応条件をあげている。また、日本語でのレビューとしても読む価値がある。

一次研究用フォーム		データ格入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Demographics, prognosis, and therapy in 702 patients with brain metastases from malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	MMCQ19-1 Web	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（1V）	
	Pubmed ID	9420067	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Neurosurg	
	雑誌 ID		
	巻	88	
	号	1	
	ページ	11-20	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1998 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Sampson JH	デューク大学
	その他著者 1	Carter JH Jr	同上
	その他著者 2	Friedman AH	同上
	その他著者 3	Seigler HF	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	702 例の悪性黒色腫の脳転移の患者を解析し予後因子を解明することと、治療に関する推奨に値する情報を集める。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	米国外科専門医会データベース（デューク大学にセンター）	
	対象者	原発部位：体幹(43%)、頭頸部(18)、四肢(25) 脳転移数：1 個(39%)、2(13)、3(7)、>3(38) 他臓器転移：なし(54%)、あり(46)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入（要因曝露）	全身化学療法：524 例 放射線治療：180 例（全脳照射：30 Gy/10 回） 手術：139 例（術後照射なし：52 例、あり：87 例）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
レビューコメント	主な結果	全体の平均生存期間：113 日間 94.5%の症例は疾患に伴う死亡 頭頸部原発例が他に比べ予後不良 全脳照射単独に比べ、手術+全脳照射の方が生存期間が長い 3年以上生存した症例は、単発性脳転移で手術を施行し、内臓転移のない症例であった。	
	結論	多くの症例は予後不良であったが、一部で長期生存が可能な症例があった。手術可能で全身状態が良好かつ他臓器転移がなければ手術を考慮すべきであろう。	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	原間直人	
	レビューワーコメント	膨大なデータベースからの解析ではあるが、手術が生命予後の改善を可能にしていることを示している結果ではないはずである。予後不良因子の解明には役立つ資料である。レベル 1V	

一次研究用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Palliative radiotherapy for recurrent and metastatic malignant melanoma: prognostic factors for tumor response and long-term outcome: a 20-year experience	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	MMCQ19-2Web	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(IV)	
	Pubmed ID	10348291	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	44	
	号	3	
	ページ	607-18	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999年	
	著者情報	筆頭著者	氏名
		Seegenschmiedt MH	Erlangen-Nurnberg 大学, Alfried Krupp von Bohlen und Halbach 病院
その他著者 1		Keilholz L	Erlangen-Nurnberg 大学
その他著者 2		Altendorf-Hofmann A	同上
その他著者 3		Urban A; Schell H	同上
その他著者 4		Hohenberger W	同上
その他著者 5		Sauer R	同上
その他著者 6			

目的	局所進行期、再発症例、遠隔転移の悪性黒色腫における放射線治療の姑息的治療の意義を検討するとともに、予後因子を解析した	
研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
セッティング	Erlangen-Nurnberg 大学	
対象者	121例: IIB期 (11例)、III期 (57)、IV期 (53) 原発: 頭頸部 (29例)、四肢 (51)、体幹部その他 (41) 組織型: Nodular (51例) 表在進展型 (35)、Acral lentiginous (8)、Lentiginous (4)、その他 (23)	
対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別区別せず (3)	
対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別区別せず (14)	
介入(要因曝露)	放射線治療(平均総線量: 48 Gy、12~66 Gy) 通常分割照射: 2~3 Gy/回、週5回 (77例) 1回大線量: 3.1~6 Gy/回、週2回 (44)	
エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分
1	腫瘍縮小率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
2	腫瘍縮小率と生存期間の相関	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
3	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	3か月後の完全消失率(CR)と奏効率(CR+PR) IIB期: 64%(CR)、100%(CR+PR) III期: 44%(CR)、77%(CR+PR) IV期: 17%(CR)、49%(CR+PR) 照射期間中の増悪: 21% CRになった症例(40か月)は non-CR 例(10か月)より生存期間が長い多変量解析の結果生存予後に関与しているのは病期のみ	
結論	外腫照射は進行期悪性黒色腫症例において長期にわたり腫瘍の制御を可能とすることができ、姑息的治療として有用。予後予測に UICC 病期分類は優れている。	
備考		
レビューワー氏名	鹿間直人	
レビューワーコメント	著効例(CR)は生命予後を予測する因子となるようであるが、放射線治療による腫瘍の縮小がもたらす患者のメリットは明らかにされていない。照射線量や生物学的効果を考慮し補正をした線量 (BED) のいずれも生存に与える影響は示されなかった。 レベル I V	

レビュー用対照用フォーム		データ入力欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Systemic chemotherapy and biochemotherapy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	CQ20-1Web	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Balch CM, et al. eds. Cutaneous melanoma 4th. Quality Medical Pub, St. Louis	
	雑誌 ID		
	巻		
	号		
	ページ	589-604	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( )	
	発行年月	2003	
	著者情報	筆頭著者	氏名
		Atkins MB,	Harvard Medical School
その他著者 1		Buzaid AC,	
その他著者 2		Houghton AN,	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	進行期悪性黒色腫に対する化学療法についてのレビュー	
データソース		
研究の選択		
データ抽出		
主な結果	進行期悪性黒色腫に対する化学療法についてのレビュー	
結論	D T I C 単剤と比較して生存期間の延長効果があると評価が確定している治療法は現時点ではない	
備考		
レビューワー氏名	宇原	
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I ) これまで試されてきた進行期悪性黒色腫に対する化学療法の有効性についての詳細なレビューである。進行期悪性黒色腫に対する化学療法の歴史や全体像を把握するうえで非常に有益な解説である。	